

宗教の違い超え 9条の意義訴え

那覇市内でシンポ

宗教の違いを超えて憲法9条の大切さを訴えるシンポジウム「宗教者9条の和」が28日、那覇市のカトリック安里教会であった。原発事故の放射能被害や米軍基地被害に苦しむ福島、沖縄の宗教関係者が現状を報告し、憲法が掲げる平和の実



片岡輝美さん

現に向けた宗教者の役割を確認した。

福島からは日本キリスト教団若松栄町教会信徒で、「放射能から子どもものいちを守る会・会津」の片岡輝美代表が講演。原発事故後の体験や、住民学習会での成果を話しながら「沖縄も福島も遠い所の話や昔の話ではない。お互い当事者となる覚悟を持ち、平和を目指すことが大事だ」と訴えた。

会場には県内外から120人が参加。「憲法9条が希求する平和のための戦争と武力の放棄は、基地縮小と核兵器保持のために存続を求められている原発の廃炉の実現にある」などとするアピールを採択した。